



夏号『^{みき}幹』2011. 6. 15 Vol.21

発行 / ^{ぶしん}有松まち普請の会

事務局 〒458-0824

名古屋市緑区鳴海町字有松裏 200 イーストビル内

Tel 052-625-6555(代) Fax 052-625-6633

E-mail machibusin@yahoo.co.jp



画: 松島 孝

題字: 近藤 幸之

◆二度目の倉敷

3月19日、20日は、二度目の倉敷を訪ねました。一度目は、四国香川県琴平に幕末からありました芝居小屋金丸座が復元された時です。その舞台で年に一度の四国こんぴら歌舞伎大芝居が演じられるようになり、その三回目にしてやっと手に入れた枡で仕切られた平土間の席を手さげのバッグにあたためながら、その前日、倉敷を訪ねています。1987年4月の陽は、倉敷川畔のスケールの大きな偉人たちの確かな足跡があつてまぶしかった。

24年の日が過ぎ、全国町並み保存連盟の理事会会場になり二度目の倉敷を訪ねました。駅から大原美術館に直行。「余がこの資産を与えられたのは、余の為にあらず。世界の為である。」大原孫三郎の「ことば」であります。実業家孫三郎、總一郎父子二代にわたる、まちを愛する気高い志は、芸術、文化の魅力に時間の過ぎるのを忘れさせる「まち」でありました。

一度目の美術館は、民芸運動の創始者、河井寛次郎、柳宗悦の作品を沢山に見せていただいた記憶と、画家であり、孫三郎の支援を受け、大原コレクションの収集につとめた児島虎次郎記念館は、倉庫を利用された赤レンガの建物、孫三郎渾身の別邸「有隣荘」の陶器瓦の美しい輝きが心に映っていました。

二度目の美術館は音声ガイドのお世話になりながら、久しぶりにゆっくり過ごすことが出来ました。グレコ「受胎告知」、セザンヌ「風景」、マティス「マティス嬢の肖像」、ミロ「夜のなかの女たち」が今だ手元に残している私の中のチェックでありました。

倉敷市倉敷川畔は、かつて商業拠点として商家の蔵屋敷が互いにその蔵容を競い合い、川面には倉敷独特の格調高い意匠に彩られた美しい景観が映し出されるようになり、現在まで引き継がれている。昭和54年5月21日重要伝統的建造物群の選定を受けています。

この地域には、四国へおまいりに行けない方もある

ので、八十八ヶ所が祀られていて信仰の厚さが伝わりました。商店街には、表具屋、陶器屋、畳屋、荒物屋、不動産屋があり、呉服屋は三軒もありました。倉敷帆布は目を引き、より合わせた糸で織り上げる伝統的な厚手の平織物で、トートバッグ、帽子などおしゃれで機能的な帆布グッズに出会いました。さて、倉敷の夜の街に、料理屋さんの二階の障子に映る動画の影絵の粋なはからいに、思わず立ちつくすご一行様でありました。



倉敷川畔

次の日の午前中は国の重要文化財、江戸後期に建てられた大橋家住宅を見せていただきました。見る、買う、食べる倉敷、父は蔵のまちに産業と文化の種をまき、子は倉敷ルネッサンスの華を咲かせた倉敷、また訪ねたい街であります。NPO 法人倉敷町屋トラストの皆さまに大変お世話になり、ありがとうございました。

細根山は、5月22日の篠田先生の森づくり研修会に引き続き、6月5日(日)学区あげての清掃が行われ、100余名の方々の参加があり綺麗になりました。これからも学区の皆さんと共に細根山の歴史を学び、散策路の出来るのを楽しみに清掃を続けたいですね。

徳田 和子

◆東北地方太平洋地震災害支援の御礼

長い寒い冬が終わり、桜が咲く良き季節となりましたが、皆様におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、先日は東北地方太平洋地震災害支援につきまして、ご協力頂き誠にありがとうございました。私ども、有松まち普請の会は、住み誇れる地域づくりをみんなで考え、行政と話し合い環境を整えていくのも、目的の一つであります。3月11日東北地方で世界でも最大級の地震が発生し、10分後に大津波に襲われて無残な環境に変えられてしまった、東北太平洋岸の人たちの心境を思うと、私たちに何が出来るかを役員で話し合い、町の復興に尽力される方々に直接支援してはどうかとの意見でまとまり、募金活動に入りました。2週間足らずで271,500円もの貴重な浄財が集まり、早速、事務局長近藤が自家用自動車です。4月9日午前3時30分に岩手県釜石市鶴住居町に向けて出発しました。

先ず東北方面に行く道で、目立ったのは、タンクローリー車と自衛隊の車両が多く被災地に向かっていたことです。身の引き締まる思いがしました。

福島県に入る頃から高速道路がところどころ段差が出来ていて、地震による液状化現象のうねりのあのように感じ慎重に走るよう心がけました。名古屋から目的地まで丁度1,000kmの長旅なので運転者3人、交代で行くことにしました。

東北自動車道の花巻インターで降りたのが午後3時半過ぎで、その後は一般道を2時間かけて釜石市の海岸目指して走り続けましたが、一向に地震の爪あとも無いので少し安心して走っていたら、鶴住居町に入った所の橋を渡った途端、目の前にあの惨状が飛び込んで来ました。その時は、啞然とするばかりで声も出ませんでした。

テレビでは毎日のように見えていましたが、まさかこんなにも酷い状況だとは思ってもせず、本当に心が沈みました。

でも勇気を奮い立たせ、皆さんの思いを伝えに来たのだから、何が何でも目的を果たすために、一番目の避難場所鶴住居小学校を訪れて、岩崎さんの消息を訪ねたら運良くお姉さんにお会いする事が出来ました。話を聞くと経営されている民宿旅館に戻って居られるとのこと。それを突き止めてから、恐る

恐る向かいました。

道中はそれは悲惨な情景が続き、自分でもどうしたら復興が出来るかを考えましたが、答えは見つかりませんでした。何度か回り道をして、ようやくの思いで民宿に着いたのは6時を回っていて、あたりは薄暗くなりだしていました。

初めてお会いした方ですが、どんな言葉をかけたらいいか一瞬迷いましたが、第一声、日本中の多くの方々が一様に心配して居られますし、応援しようとする力を合わせ活動をされていますから、今しばらく頑張ってくださいと、重ねて励ましとお願いをしました。

そしてしばらく立ち話をしてから、避難場所をのぞかせていただきました。そこも学校の体育館で片隅には物資が多く積まれていましたが、体育館の中にごろ寝状態で、何家族も寝泊まりを一ヶ月されてみえて、疲れ果てておられる状態が、何時まで続くかわからないのが、大変心配でした。マイクを向けられましたので、支援協力をしてくださった皆さんの思いをしっかりと伝えて、今一度皆さんの手で必ず復興してくださいと励ましのエールを送ってきました。

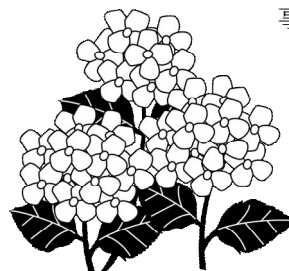
最後に、避難所の方に、今すぐ必要な物がありませんと聞きました。遠慮されてなかなか言われなかったのですが、重い口を開いて、できましたら中古で結構ですが自転車がいただきたいとのこと、それを必ず送りますと約束して帰ってきました。

今、何が出来るかを考えて、少しでも震災にあった人たちの役に立ちたいとの思いで、呼びかけましたが、多くの皆様にご協力いただき、被災者の方たちの皆様に感謝されて、くれぐれもよろしくお伝え下さいと伝言を聞いてきました。

有松まち普請の会が、被災者のわずかな方たちではありますが、直接支援出来た事に、誇りと勇気ももてた事に感謝しています。

ご協力本当にありがとうございました。今後ともよろしく願い申し上げます。

事務局長 近藤 鋭治



◆重要伝統的建造物群保存地区選定と足助の挑戦

去る4月15日、国の文化審議会は、足助の町並みを重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）に選定することを文化庁に答申しました。正式決定は、6月に予定される官報への告示を待たねばなりません。この答申によって足助の町並みが、愛知県初の重伝建になることが確実となりました。昭和50年代以来の積み重ねがある足助の町並みの保存運動は、今回の選定により、新たなまちづくりの舞台に立つこととなります。



マンリン小路

足助の町並みの特徴としては、江戸時代中期以降の個性的な建物が混在しながら、一つのまとまりとして風情ある雰囲気を醸し出していることや、街道筋、川筋、山筋の3本の通りと、それらに直行するいくつもの小路が、様々な景観を見せていることなどが挙げられます。ただし、重伝建選定までの活動の中で大切にしてきたことは、これらの景観的な特徴を保存することだけではなく、この地域でより豊かに暮らしていくこと、次代を担う人たちが誇りと愛着を持てる町にすることです。

時代を経た建物や町並みは、そこで暮らした人々の生活や生業の移り変わりなどを色濃く映し、その土地固有の歴史や文化（＝足助らしさ）を語ってくれます。その物語を知ることで、日々の暮らしはより豊かなものになると思います。とは言うものの、建造物の保存と生活の維持や快適性の向上の両立など、簡単なことではありません。



鈴木家住宅紙屋

ただ単に快適な生活だけでなく、ただ単に外観の保存だけではなく、この町がいつまでも「住み継がれる町」であるために、重伝建の制度を活用したまちづくりへ、足助の挑戦が始まります。今後の足助のまちづくりについて、ぜひ応援をお願いします。なお、8月6日(土)には、重伝建選定記念行事としてまちづくりのシンポジウムを開催する予定ですので、こちらにもぜひお越しください（詳細についてはお問合せください）。

豊田市役所 足助支所 地域振興担当 天野 博之

◆足助ひな祭り見学会（平成23年3月1日）

有松まち普請の会よりバス1台で足助に中馬のひな祭りを見に行くが、出発間もなく雨になりました。豊田市役所足助支所二階で係りの方が建物や町並み保存の難しさを話されていました。

我々はスローな見学でおひな様も結構見ましたが、これだけ時間が立てば、おひな様への感情も大分遠のきました。



明治から現在までのもの、土びな、木目込みびな、手作りの陶器びな、可愛く今風、自分用、非売品、商売品とありとあらゆるおひな様がありました。

さておいて町なかで数人並んでいたのも、そこに加わり並びました。NHK 昼のプレゼントで放映された肉屋さん手作りの1ヶ130円のコロッケでした。早速みんな買って食べながら歩きました。おいしかったお昼前、傘があるので恥ずかしくありません。しばらく行くと看板の屋号が珍しい字、読めず店に入り店主に尋ねました。莩屋＝タバコ屋だそうです。へー、連中の話題になりました。

昼食はうなぎにしました。座敷で食べながら見ていると、壁に掛軸風に女帯芯に細字で2行程書いてあったのが目に止まり、その下の方に手作りの布びなが飾ってありました。それが印象的で心に残りました。外はまだ雨でした。最後にみやげをと思い、香嵐溪の売店で時季外れの「もみじ饅頭」が半値以下だったので衝動買いをしました。

4度目の足助の旅でした。

小園 チヅエ

◆第6回 藍流まつり(舞りゃ〜せ)

4月23日(土)24日(日)

東北大震災で祭りをを行うかどうかと迷いました。あっちもこっちもと自粛していたら、日本中が暗くなってしまう。勇気づけましょうとの事になり、開催する事になりました。私達は毎年子ども縁日をするのですが、お手伝いをお願いにいくと多数の方がきて下さって、今までにない人数で行う事が出来ました。昼食も交代でゆっくりらせて頂きました。

今年も又雨にたたれ、23日(土)は2階の自由通路にて開催されましたが、人通りが少ないのでどうかと心配しましたが、ベリーダンス、チャンバラエンターテイメント劇団コダチ、大須アイドルユニット「OS☆U」のライブ後はサイン会があり、40代～50代の男性が多数の列を作り大賑わいになり、CDや顔のついてるバッチなどよく売れていました。縁日の場所も狭めて見とれていました。どの演技もすばらしく、外でやれたらもっと大勢の方にみてもらえた事でしょう。4時からはずばらしい結婚式をみせてもらい、5年生になる娘さんのある方でしたが両親のエピソードなど語ってくれて、きっと良き夫婦なのでしょう。末永くがんばっていけるカップルだと思います。

24日(日)は、すばらしい良い天気になり張り切ってコメダコーヒー前にて準備、日差しが強いのでテントも張って頂き商品を並べているうちに、子どもさんがきてくれて大急ぎ、順調にいったのに午後2時過ぎ、急に雨にたたれやむなくやめる事にしました。やはり、綿菓子は毎年一番人気で、並んで待っていて下さったので最後の子どもさんまでお渡ししてやめましたようです。広場の方では鳴子おどりもぬれながら最後までがんばっていたようでした。



下記は、お手伝して下さった一部の方達のコメントです。

*大震災でみんなの気持ちが沈んでいる時、元気の湧き出る「有松村藍流まつり」が開催されてよかったと思います。会場は踊る人、演奏する人、かけ声手拍子で元気があふれていました。私も縁日のお手伝いをさせて頂き、その雰囲気を感じながら皆さんの笑顔が元気の源となりました。

*まち普請の会に初めてお手伝いする機会を得て、皆様の一生懸命に盛り上げる姿を見る事が出来ました。また、小さい子供さんがお母さんと共にゲームに参加し喜んで帰られる姿を嬉しく感じました。

*「子ども縁日」は可愛い大勢のお子さん達との出会いがあり、とても楽しみです。昼過ぎには突然の雨に見舞われ、一時人が途絶えて暫く手持ち無沙汰でしたが綿菓子売り場では、行列のできる程、大繁盛で良かったですネ。

*「有松まち普請の会」に入会いたしました。その後「藍流まつり」の綿菓子作りの、お手伝いをしました。和気藹々の会員の皆様の中で、何も知らない私に、ご親切に、ご指導を頂き疲れもなく、二日間楽しく過ごす事が出来ました。綿菓子作りを見ていると簡単に出来るようですが、難しく手を出せませんでした。この次お手伝いをする事があれば、私なりに頑張りますのでよろしくお願ひ申します。

*毎回楽しく参加させていただいています。徳田会長の言われる、年をとった時こそ地域とのつながりが大切ということを実感しております、この会が増々発展しますことを祈っております。ただ仕事量に対して人数が多いのではと思います。チームに分けて当番制にするとか、メンバー一覧表を作って、春祭りは何番までの人、藍流祭はその次から何人とか・・・。

イベント委員長 山口 彰子

◆藍流まつり

お祭りと言えば、京都の数あるお祭りの中でも最も有名な祇園祭であろう。夜、幻想的に輝く火は人々の心を魅了し、規模の大きさでも圧巻である。

遠い記憶の中から霞んでみえる子供時代の思い出をすくい上げてくると、それはやはり村祭りである。村祭りと言え程のものではない。夏の日、浴衣を着て友と手をつなぎお祭りに出かける、その祭りは夜なのである。両わきに民家が立ち並び、曲がり角の家の黒い板塀は、かすかにはげで白っぽくザラザラしていた。あまり広くない道に提灯がともされ、固くふみしめられたでこぼこの黒い道は穴があいて水がたまり、その水に提灯の明りがぼんやりと光っていた。その道をずっと歩いて行くと、石像のお釈迦様が端坐しておられる。その日は、皆に小さなコップ一杯の甘茶が配られるのである。薄いページュがかかった透明な甘茶は、ほろ苦くかすかな甘さがあった。その道の淵に水を張ったたらいに小さな赤い金魚が泳いでいた。何度も紙が破れて失敗した。おじさんは透明な袋に金魚を一匹入れて「はい、おまけだよ」と言って手渡してくれた。その嬉しかった事は記憶の中にある。焼いたトウモロコシ、焼きイカの香ばしい匂いは、あたりの闇の中までただよっていた。トコロ天や、やきそばの店もあったっけ。

そうした思い出は、今もほのぼのと私の記憶の中によみ返ってくる。それは良きものへの郷愁であろうか。

今私は「有松村祭り」の一部に参加させてもらっている。ほんの少しのお手伝いなのである。イオンのコンクリートの上に屋台が置かれ子供達が集まってくる。昔の金魚は今は小さなスーパーボールに替わり、「ヨーヨーすくい」「輪投げ」「綿菓子」は昔と似ている。私が「スーパーボールすくい」を手伝った時「はい、おまけよ」と小さなスーパーボールを手渡すと、子供は何とも言えない嬉しそうな顔をしてニッコリと笑った。私は本当に嬉しかった。全部の子供達におまけをして上げたかったが、そうはいかない。この子供達も成長した時、何かと思い出してくれるのでしょうか。人々の心の中に小さくも懐かしい楽しい思い出が集まり、子供から孫にと伝わっていくことは、芸術や文化、伝統を伝えていくことのひとつの手助けであると思う。願わくば有松のどこかに、ほたるの飛びかう場所があったらと思う今日この頃である。

鈴木 久子

◆「四間道・円頓寺見学会」

&「講演会・シンポジウム」情報

平成 23 年 3 月 5 日那古野コミュニティセンターへ徳田会長、安藤街路景観委員長と 3 名で出席。

午前中は町並みの見学会、午後からは講演（町屋再生の技と知恵）、シンポジウム（町屋保存と活用を考える）と充実した内容で参加者は約 60 名。

四間道・円頓寺は JR 名古屋駅から徒歩 15 分位の所にあり、堀川の水運を利用して堀川筋商家として栄えた町である。

代表的な川伊藤家住宅を見学させていただき、本家、新座敷、南座敷からなる母屋と蔵、新土蔵、西蔵、細工蔵があり、1987 年に県指定文化財に指定された。五条橋は堀川開削当時に架けられ船着場があり、全国からの物資が荷揚げ送り出されたところ。（重要建造物）

四間道は 1700 年の元禄の大火後延焼を防ぐために道幅を四間に広げたことが名前の由来。白壁の土蔵や古民家が立ち並ぶ町並みは、1986 年に名古屋市町並み保存地区に指定された。

町の中には円頓寺（1654 年創建、1724 年に現在地に移された。）浅間神社には樹齢 300 年以上のケヤキ、民家には屋根神様が祭られているところもあり風情が残る町であった。



講演会

NPO 法人京町家再生研究会常任理事 木下 龍一氏
[要旨]

京町屋再生とは京都の古い町並みを残すために技術と知恵を出し合い再生していくこと。

近年、京都の歴史ある町並みが減少していく中で、再生の資金・建築基準法等、持家の方とどう進めていくか？地道に取り組み成果を挙げている。

広報委員長 松島 孝

◆「細根山オアシスの森」の進捗状況と取り組み

1. 平成 22 年度の工事完了（名古屋市緑土木事務所）

「細根山オアシスの森」

園名柱・集い広場・公園灯・ベンチ・防火用水・スツール・車止め・三吟塚(説明板) 湛然堂(説明板)・歴史広場に細根山十四景の案内板の設置が完了。

園内に 3 本の散策路が整備され、下郷家の墓地は周囲を四ツ目垣で囲い門扉が設置されている。



三吟塚



湛然堂址



歴史広場（小山園）

2. 「有松まち普請の会」の活動

- 3月 6日 細根山の勉強会
- 4月 16日 細根山オアシスの森 清掃（第1回）
- 5月 22日 篠田先生のご指導により、新しい散策路の検討、森の手入れ。（細根山）
- 6月 5日 細根山オアシスの森 清掃（2回）



細根山オアシスの森入口

3. 「細根山公園愛護会」設立

地元住民が中心となって、主に清掃や除草などを月 1 回以上行うことを条件に、平成 23 年 5 月 9 日に認定された。

(組織) 東丘、相原、平子学区内の住民で組織する。
 会長 石田健一(東丘) 副会長 尾藤宗男(相原)
 委員 鈴木幸男(平子) 委員 春日 康(相原)
 委員 安藤富一(東丘) 委員 宮嶋愛子(平子)
 (本会の委員の任期は 1 年、但し再任を妨げない。)

(活動) ・毎月第 2 日曜日午前 9 時 30 分から清掃実施
 (雨天の場合は集会場にて定例会とする。)

・公園愛護の PR

(団体の要件) 地元住民 5 名以上、

原則一公園一団体による活動。

(報奨金) 月 3000 円 但し 1 年間の実績を確認後、名古屋市より当会に支払われる。

街路景観委員長 安藤 富一

◆「有松まち普請の会」総会を開催

5月17日(火)午後1時30分より

イーストヒル5階大会議室に於いて、第7回定時総会が開催されました。

平成22年度事業報告、平成22年度会計報告、新年度役員選出、平成23年度事業計画案、平成23年度予算案について、それぞれ承認され、市議会議員中里様、歴史まちづくり推進室室長 山内様、緑政土木局緑地維持課長 横地様、学区区政委員長 石田様から祝辞を頂き、総会は、滞りなく終了しました。

総会終了後、豊藤稲荷神社宮司 坪井典男先生による、講演会「細根山と細根天満宮」が行われました。

◆巨大な火だるまのような真赤な電車が、

轟音とともにすれちがって行った。

名古屋鉄道広報宣伝部が毎月発行している名鉄沿線おでかけマガジン「Wind」は、今年3月号で通巻600号を迎えました。

その前身誌の平成3年9月号に 乗りものの文学 城山三郎『捕虜の居た駅』を「巨大な火だるまのような真赤な電車が、轟音とともにすれちがって行った。」という表題で、当時、名古屋大学教養部教授 助川徳是さんが寄稿されている。表題は『捕虜の居た駅』の冒頭で、城山作品を改札の少女と捕虜、破局と二部構成で詳しく紹介されています。

短編小説が発表された昭和36年は、東京オリンピック開催の3年前で高度経済成長の入口にありました。そして、30年後の平成3年は、バブル経済崩壊の時期と重なります。

さらに20年経つ今年は、先行き不安のなか未曾有の東日本大震災に遭遇しました。

真赤な電車7000系パノラマカーは、50年を待たず引退しましたので、ミュージックホーンの音を今では残念ながら聞くことはできません。戦後復興と経済発展の力強い証しとして、長く記憶に残しておきたいものです。戦争の悲惨さとともに……。



☆前号記載の『捕虜の居た駅』のあらすじの文中 “戦後十数回、有松駅から～” は “戦後十数年後、有松駅から～” とお詫びし訂正いたします。

藤島 繁博

◆平成22年度事業報告書

平成22年4月1～平成23年3月31日

4月	5日	猪股典子月1ふれあいコンサート
	11日	クリーン活動 毎月11日
5月	15～16日	第5回 藍流まつり開催
	18日	定時総会
6月	5～6日	絞りまつり・子ども縁日開催
	15日	会報「幹」発行(19号 500部)
7月	1日	全体会・懇親会
8月	13～15日	第5回有松村夏まつり開催
9月	27日	御神輿・獅子頭・猩猩の展示
10月	3日	天満社秋季大祭 子ども縁日開催
	28日	秋の研修会 奈良県橿原市今井町 34名参加
11月	11日	細根山 “オアシスの森” 講習会
	21日	細根山 “オアシスの森” 体験会
	26日	研修会 犬山城町並み見学 20名
12月	15日	会報「幹」発行(20号 500部)
2月	21日	細根山 “オアシスの森” 視察
3月	1日	研修会 足助町並み見学 42名参加
	5日	街並み見学会と講演会・シンポジウム参加 (円頓寺商店街、四間道周辺)
	6日	細根山 勉強会(細根公会堂)
	17～31日	東北関東大震災 義援金を募る

◆平成23年度事業計画

平成23年4月1日～平成24年3月31日

本部事業 11月1泊研修旅行 役員会 年間10回

広報委員会 会報「幹」発行

夏号(6/15) 冬号(12/15) 各500部

研修委員会 四間道・円頓寺 見学会

大垣を訪ねて 研修会

街路景観委員会

・細根公園オアシスの森 整備計画検討会 数回

・ “ ” 計画説明会 数回

・クリーン活動(有松駅前周辺) 毎月11日

・ “ ” (細根山公園) 毎月1回

・マップ・ゆるキャラ作り

イベント委員会

4月 藍流まつり 子ども縁日 8月 夏祭り 子ども縁日

10月 秋祭り・子ども御輿、子ども縁日

てんこくしょうかい
篆刻紹介
～第21回～

忘己利他

物壯則老



忘己利他

【読み方】己を忘れ他に利する

【出典】伝教大師の言葉

【意味】自分の事は忘れて、他人の利益になる事をするのは、慈悲の心である。

【考察】比叡山延暦寺の開祖伝教大師の仏教観を表した言葉である。「悪事を己に迎え、好事を他に与え、己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」という事であるとは天台宗大阿闍梨酒井雄哉氏の言である。(サライ二十一号による)

【篆刻】「己」のみを朱文にした朱白文である。朱白文のおもしろみは、朱と白との極端な対比にある。朱の線は極力細く、逆に白の線は極力太く表現した。白地の中に朱が混じる感じである。

物壯則老

【読み方】物壯なれば則ち老ゆ(ものさかんなれば すなわちおゆ)

【出典】老子 三十三章

【意味】すべて物は壮んるときがあれば、必ずや次には老いるときがめぐってくる。これが天地自然の理である。

【考察】老子の思想をよく表した語である。虚無自然を説く老子の思想は、東洋思想の根幹でもある。自然の理に従えば、壮なる者、強いは必ず老い、衰えるときがくる。もって自覚したい言葉である。

【篆刻】やや小さ目の石に、朱文で小篆文字を使って刻した。

制作者 近藤幸之(号 雲洋)



インフォメーション

- *「研修会」四間道・円頓寺見学会(7月)
- *豊田市足助重伝建選定記念行事(8月6日)シンポジウム開催
- *有松村夏祭り(8月13日14日15日)イオン有松屋上にてP.M.17:00~21:00
- *全国まち並ゼミ飛騨市大会(9月30日10月1日2日)岐阜県飛騨市古川他
- *「研修会」大垣・芭蕉行脚「奥の細道」最終地を訪ねて(10月)
- *秋の研修旅行(11月)広島県鞆の浦(ともものうら)一泊

◆編集後記

打ち水にしばらく藤の雫かな ー高浜虚子ー

1874~1959年 明治・昭和期の俳人、小説家 俳聖正岡子規の高弟

今年の夏、福島第一原発の事故を受け首都圏や中部圏は、節電の夏を迎えようとしている。

5月9日、中部電力は異例の政治判断のもと、静岡県御前崎市にある浜岡原発全面停止の首相要請受け入れを決定した。この原発は、30年以内に87%の確率で起きるといふ東海地震の想定震源域に立地し、津波対策などを終えるまでの2~3年間の停止となる見通しである。

長年、国民も産業界も電力の安定供給の恩恵に与かって来たが、この夏の需要ピーク時の電力不足は誰しもが不安を感じている。

先日、気象庁は6~8月の3ヶ月予報を発表し、「そこそこ暑い夏」「夏らしい夏」とした。昨年ほどの猛暑ではないとの事であるが…。気象台観測予報課の話では、週間予報や異常天候早期警戒情報等で高温になることがわかれば、随時情報を出したい、とのことである。

会員の皆様には節電が過ぎて体調を崩される事なく、厳しい節電の夏をお過ごしいただきたいと思います。

政谷 信子

